年間授業計画 新様式

高等学校 令和７年度（２学年用） 教科 商業科 科目 ソフトウェア活用

教 科： 商業科　　科 目： ソフトウェア活用　　単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ E 組

教科担当者：

使用教科書：（ 実教出版『ソフトウェア活用』 ）

教科 商業科 の目標： 商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 ソフトウェア活用 の目標： 商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即し体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。	【企業活動とソフトウェア活用】	ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。 情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し、ソフトウェアの意義や役割を考え、具体的な利用例を理解することができたか。 ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。	○	○	○	15
	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	【表計算ソフトウェアの活用】	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
2学期	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。	【データベースソフトウェアの活用】	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み実践的活用のための知識と技術が身に付いている。	○	○	○	30
	業務処理用のソフトウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	【業務処理用ソフトウェアの活用】	業務処理用ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3学期	情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。	【情報システムの開発】	一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができるか。	○	○	○	20
							合計 105